

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100223		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 サンハイツ小江原		
所在地	長崎県長崎市小江原4丁目43-12		
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 6 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kani=true&JigyosyoCd=4290100223-00&PrefCd=42&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28 年 1 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長崎市内でも数少ない民家を利用した単独型事業所です。普通の民家を利用しているのご利用者が入った瞬間「ここはよかね～」と仰って頂ける和の作りとなっております。この和みやすい環境の中でご利用者お一人お一人の能力を十分に発揮して頂きながら笑顔あふれる時間を過ごされています。民家の為、他事業所に比べ手狭感はありませんが逆に、より身近に寄り添えるケアが実践できるという強みになっていきます。認知症を抱えている方には特に安心感に繋がっているのでは…とのお褒めの言葉も頂きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元民家を改善した当事業所は自宅にいるような雰囲気の中で、他の利用者や家族と共に協働しながら日々を送っている。職員は利用者から生活の知恵や昔ながらの作り方を教わりながら、町内の季節の行事に参加したり、手作り作品を飾ったりしている。職員のアイデアを取り入れたおもてなし感動シートは、職員各々が気付いた良い事が記入してあり、他職員の意欲や更なるアイデアの抽出に繋がっている。また、事業所独自の変わり湯、ミカンの干し皮や檜のチップのお風呂は職入浴剤以外の楽しみとして利用者にも好評である。日々の利用者の様子は法人ホームページのブログにもコメントと写真で掲載され、広報誌以外でも利用者の様子を知る事ができる。自治会長や民生委員と相談し自治会の方と市民防災リーダーの研修を受ける等、現在は地域との協働にも積極的に取り組む姿勢があり今後に期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

サンハイツ小江原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念に基づいたサンハイツ小江原の方針を柱として、地域に根差した事業所となるよう実践しています。	法人理念について勉強会(フィロソフィ)を行い、チーム別に目標を決め、毎月の定例会議で進捗具合を確認している。常にその人らしい生活を念頭に置き、おもてなしの工夫をしながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事である毎月最終日曜日の定例清掃、市民大清掃、夏祭り、グラウンドゴルフ大会、そして自治会と共催しているもちつき大会に参加させてもらう事で交流を図っている。	毎月の自治会清掃・年1回の市民大清掃や近隣スーパーの駐車場で行われる夏祭りには裏方を手伝いに地域の一員として職員が参加している。また、利用者は見学・買い物に出かけている。利用者と散歩に出かけた際は挨拶を交わし、事業所の利用者である事をわかってもらえるように考慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会活動への積極参加を通して、地域の方との交流が出来ている。介護に関する質問等もあり適宜お答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供状況を周知すると共に出席者から意見を吸い上げ現場へフィードバックしサービス向上に活かしている。	前回受審後から自治会長・民生委員に参加してもらえるよう改善に取組んだ。会議では状況報告・意見交換・様々な提案がなされている。今後は議題に応じて警察や消防署・消防団員に参加してもらえるよう検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や小規模多機能連絡会において行政の方と情報交換や意見を頂いたりしている。	現在包括が高齢者の安心マップの作成に取組んでおり、自治会の方と管理者も共に市民防災リーダーの研修を受け、地域行事を通じて連携していこうと検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き身体拘束しないケアに努めている。	定期的に勉強会を開催し身体拘束について禁止となる行為を認識しており、ベッド柵(4点)やセンサーの使用はない。言葉による行動抑止とならないよう、職員へ注意を促し、利用者には順番にする事や待ってもらう事の説明等を話しながら支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては資料を配布している。必要性が高い方は勉強会等で取り上げ制度の周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には十分時間をかけ項目ごとに質疑応答しながら確認して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を半期に1度行い、ご利用者やご家族からの意見や要望を集約し反映させるようにしている。また、送迎時の情報交換及び連絡帳やメール・携帯電話等でのやり取りでも意見や要望をお聞きできるようにして改善点は都度対応している。	半年に1度満足度調査を行っており、家族の意見・要望に応えるよう取組んでいる。また、送迎時にも様子を聞くように努め、連絡帳でも情報交換・意見交換ができるように取組んでおり、緊急性が高い時はメールや電話で連絡が取れるようにしている。家族の要望に応え、手引きの方法を教えた事もある。	家族が言い難い事や言い辛い事がある事を考慮し、意見・要望・不安について話ができるような雰囲気・工夫(アンケートにもう一工夫する等)する事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議や定例会議等意見を言う場をたくさん作っている。スタッフはたくさんアイデアを出し実践している。	チーム会議や定例会議で職員のアイデアを取り上げるよう努めており、4～5年前から取り組んでいる体操カレンダーの年間表彰やおもてなし感動シートを活用した職員同士のいいところを記載した用紙は他職員が意欲的になり、更にいいアイデアを引き出すことに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人により整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を職員へ周知し、積極的な参加を促している。また、管理者が必要と判断した研修には参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能連絡会に参加する事により情報交換や勉強会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前面接において困っている事や要望等を伺い一緒に目標を定めるようにしている。利用開始後はリーダーが率先して寄り添い不安など取り除く支援を行い、楽しみ等を一緒に探すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前面接や契約時にアセスメントをとりながら困っている事や要望などを伺い、今後に関する考え等様々な情報を収集している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを拾い上げながら今どんなサービスがどれくらい必要か探りながら提案している。また、小江原のサービスで不足する場合は他のサービスも提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小江原では「一緒に生活する」という考え方が浸透しており、家事など一緒に行いながらその後は余暇活動で目いっぱい楽しむという関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ができる所は支援して頂きながら一緒に支援していくという視点に立って提案やアドバイスをを行い、共にご利用者を支えていくんだという関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が住まわれてきた地域の行事等できるだけ参加し続けられるよう支援しています。送迎時馴染みの人とすれ違った際は、しばらく停車して旧交を温めてもらえるようにしている。	重度化が進んだ方もおり、行事へ参加する事が減り、家族と共に参加する方や他利用者と共に参加する方等、昔からの交流の場が継続するよう努めている。家族からの取り次ぎで事業所へ友人が訪問する方もおり、利用者の身だしなみに配慮したり、状況に応じて利用者の近況を話す事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	配席等に注意しながら他者との交流がうまくいけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街中でお会いした時などあいさつとともに近況を尋ねたり情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入浴時やトイレ誘導時など1対1になった際に希望や意向を把握するようにしている。また、自宅にいる際にも聞き出すようにしている。	送迎時・訪問時・入浴時等、二人で話せる機会に普段話せない事について聞くように努めている。発語が少ない利用者からは刺激になるような事を話しかける等、問いかけに対し肩間にしわが寄るなど些細な事から意思を把握するよう努めている。気づいた事は連絡帳に記載し、家族と共有できるようにも取組んでいる。情報シートを基に職員会議でも情報を共有するよう取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時や半年ごとに聞き取りを行い情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス開始時や半年ごとに聞き取りを行い情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎に情報シートへ全職員が気づいた事を記入しケアプラン作成に役立てている。また、状態に変化が生じたご利用者は毎月の定例会議の中で随時見直しを行っている。	全職員の気づきを記録した情報シートを基に、医師・看護師の医療的意見も聞きながら、家族の要望を反映させた計画書を作成するよう取組んでいる。作成した計画書については状態及び変更した内容等を説明している。家族からも色々意見・要望をもらえる事を望んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきは職員間の連絡帳や個別記録に記入したりミーティング等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族がどうしても対応できない場合の病院受診など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物や近所の散歩で住民と関わりながら生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ご利用者ご自分の主治医との関係を継続している。小江原看護師が一人ひとりのご利用者の病院受診に同行させていただいて主治医との情報交換から医療と介護の関係作りにも活かしている。	家族の協力の下、利用前からのかかりつけ医へ継続して受診している。受診後は電話や連絡帳・送迎時の職員を通して家族と看護師・職員が共有するよう取組んでおり、医療面に関しては家族の了承の下、医師と直接連絡を取る事もある。認知症疾患についても家族と相談しながら受診するよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する窓口は看護師に一本化して全ての情報を集約させている。その指示によりケアスタッフも適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院のMSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)を定期的に訪問し関係作りに努力している。入退院時も情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・病院・当施設看護師とカンファレンスを行い、対応できるかどうかを都度判断していく。要望あるターミナルを受けていく方針である。	過去看取りの経験はないが、家族・病院・事業所看護師とカンファレンスを行い、状態に応じて家族の要望にどこまで対応できるのか相談しながら行っていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練計画の中にAEDの使用法の講習会等入れており、日常の場面においてもOJTで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルに沿って定期的に訓練を実施している。ただ地域における認知度は上がってきているものの協力体制の構築までは築けていない。	年間計画に沿って毎月通報・消火・避難・総合等の訓練を実施している。訓練には職員・利用者が共に参加し、職員は一連の流れから消火・避難・報告迄を体得できるよう訓練に取り組んでいる。また、火災を出さないよう毎月の防災チェックやコンセント周りの掃除・電気製品等の確認も行うよう努めている。	備蓄品について再検討し準備する事、及び一覧表で数量や消費期限等を管理する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対する言葉かけを意識した対応を全職員心がけている。入浴時や排泄時にもプライバシーを尊重した対応を心がけている。	人生の先輩として、馴れ合いになりすぎないよう、また、距離を置きすぎないよう配慮しながら、気になる言葉かけや対応にはリーダーや看護師が注意喚起しながら支援に取り組んでいる。	利用者の視点から声掛けの姿勢や対応等、介護・支援する事の基本を振り返り、全職員で話し合う事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で抽出した要望などをサービスに活かすようにしている。また一つ一つの行動に自己決定を促す声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の残存能力を存分に発揮して頂けるような生活リハビリ等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別な外出時や行事の際にはお化粧するなどおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食メニューは予め立てているがご利用者の要望により変更する事もしばしば。夕食はご利用者と一緒に考えながら調理している。食事も楽しみの一つとして作る・盛り付ける・味わうといった流れも達成感を高める活動となっている。	看護師を中心にメニューを作成し、利用者は畑で収穫した野菜を加工したり、日々できる事を手伝っている。職員は声を掛けながら食事介助・見守りに努め、毎食の検食に記録された食事状態や味付け・色合い・盛り付け等の感想は、毎週の献立にも活かされるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁食・嗜好からカロリー制限・塩分制限もある方、食事形態もミキサー・刻み食も柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じた口腔ケアを実施している。また、看護師による定期的なチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し排泄パターンの把握に努め排泄誘導を行い排泄失敗を減らすよう支援している。	利用者の状態に応じ、日中はパットを外し布パンツのみで、トイレで排泄するよう支援に取り組んでいる。看護師を中心に水分・排泄状況などを話し合いながら、家族へも状況を伝え自立した排泄に繋がるよう話をしよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランス良い食事の提供や水分補給に心がけている。便秘が目立つ方はご家族や主治医と連携して下剤の管理等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の好みに合わせた入浴を支援している。好評の変わり湯も実施している。	利用者の希望に合わせて、毎日入浴対応できるよう取り組んでいる。利用者の状態に合わせて声掛けしながら、着替えから洗身・洗髪等を促しできる事はしてもらえよう取り組んでいる。ミカンの干し皮や檜(チップ)の変わり湯は好評で、CDで音楽を流したり、浴室壁に花を季節の花を飾ったり、職員も共に歌ったりと、入浴を楽しんでもらうよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも横になれる環境を整える事で安心される方もおり都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が全利用者の服薬を管理し会議等で職員へ情報伝達している。服薬後の気づきに関しても看護師への報告を行っており情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴や趣味等をサービスに活かしている。小江原での役割、また、家庭での役割をどう持っていたかかを念頭にサービスを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ニーズは高くほぼ毎日外出している。自己選択して頂けるような支援を行っている。散歩に出かけたい方がいらっしゃる時は対応できるような体制作りを行っている。	利用者の希望に合わせて、ドライブや近隣の散歩に分かれて外出支援に努めている。時には突発的な要望に応える事もあり、毎日出掛けられるよう努めている。2年程前にボランティアの募集をし協力を仰いだ事もあるが、現在は職員で可能な限り利用者の外出希望に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症を抱えていても財布からお金を出して使用できる方はご自分で出し入れして頂けるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。年賀状であったり暑中見舞いだったり、その人の要望に添えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家の雰囲気のまま安心感に繋がっている。季節の飾りつけ等でさらに馴染みやすい環境作りを行っている。	元民家を改築しており、廊下は少し狭さを感じるが自宅のような安心感が窺える。利用者はそれぞれに自分の居場所を作り、穏やかに過ごしている様子が窺えた。利用者も増えトイレを増築しており、トイレ時の混雑緩和を改善した。掃除は職員が行い、利用者もできる方が手伝っている。動線確保の為にもう少し整理整頓をお願いしたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者お一人お一人、または気の合う仲間同士でゆっくり寛いで頂けるような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段の通いの中での馴染みの場所や役割が出来ている。泊りの時もその場所を使ったり馴染みの物を使う等、安心して休める環境作りを行っている。	利用者の状態に応じ、現在は2階居室より1回居室を利用している方が多い。使い慣れた湯のみや、泊まり慣れた居室をえるよう配慮している。退院後の利用者には本人に納得して自宅復帰ができるよう、根気よく取組中である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活を一緒にしていくという観点から、家事関係も一緒にいけることは行って頂けるよう支援している。		